

平成 30 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 上野 誠

最終学歴	1990年3月国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学（日本文学専攻）		
取得学位	博士（文学、文乙第7号）		
所属学会	全国大学国語国文学会学大会担当委員、上代文学会理事、万葉学会編輯委員、日本文学協会委員（1999-2002、2005～）、民俗芸能学会編集委員、美夫君志会常任理事、古事記学会理事、国学院大学国文学会委員、日本山岳修験学会評議員、吉野町町長特別参与		
専門分野	万葉文化論の方法論の摸索、万葉挽歌の史的研究、折口信夫の方法論の再検討		
研究課題	万葉文化論		
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・国文学史Ⅰ（前期） ・国文学史Ⅲ（後期） ・神話伝承論（前期） ・国文学講読（一）（通年） ・演習Ⅰ（一）（通年） ・演習Ⅱ（一）（通年） ・世界遺産文学演習Ⅰ（通年） ・世界遺産文学演習Ⅱ（通年） ・実地見学・踏査Ⅰ（一） ・実地見学・踏査Ⅰ（二） ・実地見学・踏査Ⅱ（一） ・実地見学・踏査Ⅱ（二） ・卒業論文（一） 	
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究演習Ⅰ（六）（前期） ・研究演習Ⅱ（六）（後期） ・東アジア言語文化論Ⅰ ・東アジア言語文化論Ⅱ 	
	大学院博士後期課程担当科目		
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・神話伝承論（集中） 	
【研究上の特記事項】	過去20年の研究を集大成する論文集『万葉文化論』を上梓することができた。また、過去の折口信夫論を集大成する著書『折口信夫の思考—越境する民俗学者—』を上梓することができた。したがって、研究上では、大きな飛躍を成した年であるということができよう。		
【教育上の特記事項】	ゼミナール形式の授業については、年々その運営が難しくなっているが、時間をかけて指導をしたつもりである。達成できなかつた点多々あるので、次年度には、鋭意注力したい。		
【社会的活動】	第12回立命館白川静記念東洋文学文化賞(2018年5月) 受賞理由：『万葉集から古代を読みとく』（筑摩書房）、「讃酒歌十三首の示す死生観-『莊子』『列氏』と分命論-」（『萬葉集研究』第36集、塙書房）、「南山、吉野の文学-『万葉集』『懐風藻』と神仏世界-」（辰巳正明編『万葉集』と東アジア、竹林舎）に対して。		
【学内活動】 (学内職歴を含む)	国文学科の人事委員として、三件の人事案件を起案、成立せしめて、人事の補充を行った。		

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) ①『折口信夫的思考—越境する民俗学者—』 ②『万葉文化論』 ③	単 単	2018年12月 2018年12月	青土社 ミネルヴァ書房	折口信夫の学問上の軌跡を辿り、そこから何を学ぶべきか考えた書物。 『万葉集』研究の新しい方法を模索した書物。『万葉集』を生活性・表現性・心性の三点から分析した論文集。
(学術論文) ①「紅の赤裳」という表現—裳のいろいろ（後）— ②	単	2018年10月	『美夫君志』第97号、美夫君志会	『万葉集』に登場する「紅の赤裳」という表現の希求するものを、個々の事例と歴史資料から明らかにした論文。
(学会発表) ①「紅の赤裳」という表現—裳のいろいろ— ②		2018年7月	美夫君志会全国大会	『万葉集』に登場する「紅の赤裳」という表現の希求するものを、個々の事例と歴史資料から明らかにした研究発表。
(その他) ① ② ③				